

17th International *C. elegans* meeting に参加して

若林篤光（岩手大・工・応化生命）

6月24日から6月28日の5日間に渡り、米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校において開催された 17th International *C. elegans* meeting に参加した。本学会は、毎奇数年のこの時期に世界の多くの線虫研究者が集まって、ほぼカン詰め状態で朝から晩までタイトなスケジュールで行われる。今回もカリフォルニアの真っ青な空の下、タフな学会がスタートした。

今回の事前の私の注目ポイントは、マイクロ流体デバイスを用いた行動実験系や神経細胞のカルシウムイメージング等、テクニカルな点での進展である。毎回本学会では、帰ってすぐ試したくなるいくつかの情報を持ち帰るのが常であるが、今回は事前の予想をはるかに上回るイノベーションにまずは単純に驚かされた。個別に述べることはしないが、マイクロ流体デバイスの多様なアプリケーションの数々は変異体スクリーニングや行動実験の可能性を大幅に拡張し、さらなる実験系の広がりを予想させるものであった。これを他人事として驚いてばかりはいられない。またイメージング技術を用いた研究も、感覚神経からその下流の介在神経、そのまた下流の神経細胞に至るさまざまな階層で着々と進められていた。さらに、変異体ゲノムの解析に関する新規の手法に関する情報を得たことは大きな収穫であった。

自身の発表をつつがなく終了し、Dr. Chalfie の記念講演、この学会でしか会えない幾人かの方との情報交換を終え、レストランのメニューを見たくなくなった頃に学会は終了した。期間中、UCLA 上空の青い空に数多くのヘリコプターが飛び交っていた。あの有名ミュージシャンが UCLA 病院で息を引き取っていた。はからずも世界のニュースの中心地に居合わせた今回の学会は、べつな意味でも思い出深いものとなった。

新学術領域の若手研究者海外派遣プログラムからのサポートに心より感謝する。

